

**「第2回京丹後市庁舎増築棟整備基本計画検討会議」委員意見等**

○開催日時 令和3年11月5日（金）午後3時00分～午後5時00分

○開催場所 京丹後市役所 2階 205会議室

○出席者氏名

・京丹後市庁舎増築棟整備基本計画検討会議

徳田隆男委員、中江吉徳委員、行待佳平委員、土出尉恵委員、和田直子委員、小西恭子委員、古野さつき委員、野村三輪子委員

（学識経験者）

川久保俊委員、山内正人委員

○次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

（1）庁舎増築棟整備基本計画（案）の検討について

①基本理念及び基本方針

②基本方針に基づく導入機能

※京丹後市らしさ、魅力について

③建物配置

④峰山総合福祉センターの在り方

⑤集約化

（2）その他

**◆ 基本理念及び基本方針に関する意見**

- ・ 基本理念については、全くもって大切な観点で考えられているということも理解できる
- ・ 資料3のコンセプト図は、良い庁舎をつくってSDGsに貢献するというよりも、市民生活を豊かにしたり、ビジネスがより良くなるためにSDGsを生かすという観点が重要。 2030年でこの庁舎が取り壊されるわけではないので、2030年以降もこの庁舎が愛され、市民に使われ、長持ちするということを意識したような図だと良い。このコンセプト図については、どういったものが皆さんのイメージに近いのかということをお皆さんで議論いただいたほうが良い
- ・ コンセプト図の案3は、SDGsが前面に出ているもので、関係者にとっては分かりやすいが、逆に言うと、ほかのゴールにも関係があるのに、これに絞ってしまうような印象も与えてしまうので、案3はない。案1か案2を起点に皆さんのフィーリングでどちらが雰囲気的にあっているのか、未来に向けたコンセプトをどちらがより体現しているのかを判断いただければと思う
- ・ やはり「Beyond 2030」。SDGsは2030年で終わるが、皆様のまちづくりやこの庁舎は2030年以降も残り続けるので、SDGsのその先へというメッセージ

はあったほうが良いと思う

#### ◆基本方針に基づく導入機能に関する意見

- ・聴覚障害のある人のために耳マークを庁舎のいろんなところに置いてもらい、それを指さすだけで職員さんが筆談器を持ってきて話すことができたり、手話ができる職員がいれば手話で話すとか、そういうことをどんどん進めていって欲しい
- ・当然のこととは思いますが、知的障害も含め、いろいろな障害があるので、あちこちに点字表示であるとか、エレベーター、身体が不自由な方のための手すりとかも必要
- ・市役所は、手続きなどの住民サービスを受けるところであるという概念が多くの方にはあると思うが、市民そのものが楽しむ場所というのも必要。高齢化により足腰が弱くなった方でも足が運びやすく、少しくつろげるような空間というものを取り入れていただけたらうれしい
- ・小さいお子様を持ったお母さんでもそこでくつろぎながら話ができるとか、障害を持った方が車椅子のまま移動ができるということも必要
- ・リモート会議などで利用できるような市民が自由に使えるWi-Fi環境のある広いスペースもつくっていただきたい
- ・キッズスペースはあっても良いと思うが、例えば、スタッフがいるということであれば、そこまでの必要性があるのかとか、遊具だけ置くということであれば親御さんも一緒にいる形になるし、設置する目的や活用方法を明確にして規模を検討していただきたい。必ずしも大きなスペースは不要と思う
- ・授乳室は必要だと思う。また、検診で来ることがとても多いので、検診のスペースをうまくつくっていただくほうがお母さん方が子供を連れて話せる感じになると思うので、そちらのほうに視点を加えていただけるとありがたい
- ・災害の多い現在の環境の中で色々こういうふうに考えていただいて対処していただくのはすごくありがたいが、それが理想のようにうまく動いていくのかという疑問はある
- ・市民が市職員の皆さんの近くで会議や打ち合わせができたり、少しの空き時間に仕事ができるようなワーキングスペースのようなものとありがたい。普段から市職員と身近に話ができれば、市民の活動と行政の思いをすぐに共有ができて前に進むようなことが非常にいいなと思う
- ・BCPの観点では、例えば、ワーケーションの拠点で使う椅子がベッドに変わるとか、ソファが災害時に活用できるというように、普段は何かのために使うものを災害時に転用できるような家具を選んだり、汎用性のある執務室というところでも災害時の使用を想定して床の素材を選ぶといった視点もあれば良い。
- ・会議室や窓口にTコイル（補聴器のスイッチを切り替えて、聞きやすくするもの）を埋め込みにすることも大事。今、スマートフォンでもそのような機能が付いているものがあるかと思うので、市民の皆さんが持っているものを活用して対応しても良い
- ・市民協働の場といったエリアでもいいので、子供も安心して使える、居ていい場所として、大人の目があるところで子供達が過ごせるというのも良い

- ・ICTの活用では、具体的にはWi-Fi整備というところになるが、もう少し参考になる視点を紹介すると、ICTを活用した可視化というところは重要なポイントとなる。例えば、駐車場や会議室、トイレの利用状況を可視化することにより利用の平準化が可能となり、駐車場の台数や会議室等を減らすことで別の機能での有効活用も検討できる
- ・職員ワークショップでは、部署間連携した働き方とか、市民協働という話がありましたが、マイシティレポートというサービスがあり、市民がいろんな街中で困りごと、例えば、道路が陥没しているとか、ゴミが不法投棄されているとか、そういうものの写真を撮ってその場でスマホから投稿するだけでどういう状況かとか、どこでそういうことが起きているのかということが、行政側としてすぐに把握でき対応ができる。行政と市民が協働しながら街をより住みやすくしていくという取り組みも実施している自治体も出てきている。こういうのもICTを活用した事例のひとつ
- ・今、コロナ禍で空間を広くとるとのことなど、今の時間軸で考えることも重要であるが、一方で、この庁舎は何十年とここに建ち続けることになるため、今後の世の中を見通しておかないといけない。例えば、20年後30年後になったときに、デジタル化の進展を含め、今の行政サービスがどうなっているのかということを考え、この庁舎にどのような機能が求められるのかということを考えることが必要。また、対面で人が集うことの価値をもう一度考え直すことも必要。ここで人が集まることの価値というのが何なのかということを考えておかないといけないのだろう

#### ◆建物配置に関する意見

- ・3ページ目にある増築棟の規模とか、本庁舎の前の道路を残すのか無くすのか、あるいは、防災倉庫を解体してそこに建てるのかどうかというプランがあるが、これもまた費用と、駐車場の確保というのも両方大事な観点なので、どちらを取るかは難しい。ただ、使いやすい、利用しやすい配置計画というのは大事ではないだろうかと思う
- ・今の峰山庁舎の前にある市道というのは本当に必要なのかなという感じはする。市道がある案だと本庁舎と増築棟の間は離れ、そこにいろんな一般の車両が入り込んでくるという可能性もあり、そこで分断されて危ない。市道が無くなれば、増築棟が本庁舎に近いほうに移動できて、駐車スペースが増えるということ考えると④案が良い
- ・②案のように、ここに増築棟を置くと、本庁舎に用がある人は増築棟を越えないと本庁舎に行けないということで非常に時間が掛かるし、無駄ができると思う。そうするとやはり脇に持ってきたほうが良いと思う
- ・防災倉庫は、災害時に市民が避難するところに近い場所に置いたほうが良い。その場合、浸水とか、災害が起りやすい場所は危険なので安全なところ、そして、市民が避難するところの近くにあれば機能する
- ・駐車場から増築棟を通らないと本庁舎に行けないことを考えると④案のほうが良い

#### ◆峰山総合福祉センターの在り方に関する意見

- ・福祉センターをなくして駐車場が広くなるという問題で、デメリットとしてコミュニティ

ホールがなくなるというのはマイナス要因だと思うが、どのくらい活用されているのか

→ (事務局回答)

よさこい連や合唱といった特定の団体の利用がほとんどで、20人から30人規模、週1回あるいは2週間に1回のペースで使われている。あとは、年1~2回、年金事務所などが利用されている。そういった市民利用以外では、圧倒的に市役所利用が多い。毎日ではないが、各部署で講演会のような行事であったり、あるいは、職員研修や業務上の研修であるとか、最近はコロナ対策としてホールで広くとっての会議利用も増えている。

コミュニティホールに代わるスペースとして、増築棟に土日、夜間であっても使えるような会議スペースというのは用意したらどうかと思っている。また、高速道路の延伸に伴うアクセス道路の整備を受け、マイン周辺の都市拠点について、しんざん小学校の隣の辺りに緩衝帯ということで公共的な用地としていくべきではないのかという議論を始めているところであり、図書館や雨の日でも子供が遊べるような施設をつくったらどうかといった意見がある。例えば、そこにコミュニティホール的なスペースを用意するといったことも検討はしていける

・空き小学校の体育館を改造してコミュニティホールみたいなことにするという事は可能か

→ (事務局回答)

小学校の体育館については避難所に指定し活用している

・耐震の関係が一番だと思うが、建築年数とかを聞かせていただきたい

→ (事務局回答)

8年後には65年という耐用年数が来る。一定、耐力度調査ということで、補強していけば、まださらに使えるだろうという見込みは立つが、それにしても長くは持たない建物ではないかということで、結論は出していないがいろんな検討をしているという段階である

・耐用年数が非常に短い。それから元々は丹工の建物を町が買い取ったというような経緯があって、買い取った時点で市として使うような種類の建物ではない。あるものを使って活用しているものかと思うので、いろいろとさわっていかないといけない。古いものを維持するために投資をするのは金額だけをみたら少ないようだが非常に無駄でもったいない。福祉センターは撤去して、そこを全部職員の駐車スペースにする。空き地や駐車スペースが近くにないと何かの時に職員が動くにも非常に効率が悪く、災害時でも対応がしにくいと思う。本当に必要なものは何かということを考えて、必要なものに投資をするべきで、そのほうが長い目で見て有効だと考える

・例えば橋を架けて、福祉センター側からすぐに市庁舎に行けるような形にして、職員の方がすぐに動いて機能していただけることが非常に大事

#### ◆集約化に関する意見

・5つの方針は非常に良いが、この近くに住んでいる人には、ということが前提となってい

る。増築棟として、いろんな機能を備える、新しいものができるということと、どこに住んでいても市民が同じサービスを受けられるということを考えると、可能かどうかかわからないが、市民局のほうにも是非広げて行って欲しい。そうすれば、あまりサービスにでこぼこができないのだろうと思う。第一歩としては是非やっていただけたらと思う

- ・すごく良い事だとは思いますが、やはり集中してしまうと地方がどうなるのかなという問題をすごく感じる。高齢者とか子供さん達が久美浜とか宇川とか遠くからわざわざ出向いて利用するというのはしにくいのではないかと思う
- ・観光に関わる仕事をしている人達の多くが、網野と久美浜に集中しているので全部峰山に行かないと手続きができないようなことでは大変不便だと思う。網野に本庁機能がないのであれば、その分、市民局の機能を充実させてもらえればと思う
- ・障害者と高齢者と子育てと、子ども未来課も含めて全部同じところにあつたほうがいろんな手続きのことを考えると、まとめていただいたほうが良い。特に寄り添い支援センターは駐車場にするのであれば増築棟に入れていただけるということが良いか。とにかく、そういうものと一緒に、福祉に関わるサービスがひとつのところになる形にしてもらえたらいいと思う

#### ◆京丹後らしさ、魅力に関する意見

- ・京丹後らしさがあるとより愛着を持てると思う。例えば、長生きの方が非常に多いので、この建物も愛着を持たれながら、みんなに愛されながら長持ちする、百年さらにその先までずっと残るような建物にしますといったような、なにかしら、そういう京丹後らしさがあると、より愛される建物になって長持ちするのかなと思う

#### ◆その他意見

(検討プロセスについて)

- ・愛着という言葉を出したが、かっこよくて、すごく良さそうな建築物であっても市民の方から愛着が持たれなかったり、実際に使っている職員の方が使いにくいとなると、耐用年数よりも短い期間で取り壊されてしまうので、皆様がどういう機能を欲しているのかということを徹底的に突き詰めていただくことが重要
- ・市民の皆様からこういう機能が欲しい、こういう場が欲しいというのをどんどん出していただいて、そういったものが反映されるようなプロセスが重要
- ・今ここにいらっしゃる少数の人数だけで、この案を決められるのかというところは少し気になっていて、より多くの方々にこの案を見ていただいて、アンケート等で意見をいただくようなプロセスがなくても良いのかなというところは若干気になる。SDGsでも、特にインクルーシブであるとか、市民参画、パートナーシップというところが重要視されている中で、SDGs 未来都市の京丹后市ならではの、きちんと市民の意見をしっかり取り入れたという手続きがどこかで間に挟まったほうがよいのではないか